

平成 22 年度科学研究費補助金実績報告書 (研究実績報告書)

1. 機関番号 3 2 6 0 4      2. 研究機関名      大妻女子大学
3. 研究種目名      基盤研究 (B)      4. 研究期間      平成 22 年度 ~ 平成 25 年度
5. 課題番号 2 2 4 0 2 0 4 9
6. 研究課題名      日系国際児の二言語形成過程の質的研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
4 0 3 5 0 5 6 6	シバヤマ マコト 柴山 真琴	家政学部	教授

8. 研究分担者 (所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
0 0 1 8 8 0 3 8	タカハシ ノボル 高橋 登	大阪教育大学・教育学部	教授
8 0 4 0 9 7 2 1	イケガミ マキコ 池上 摩希子	早稲田大学大学院・日本語教育研究科	教授

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字~800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本研究は、以下の3つの調査を継続的に行うことにより、日本語とドイツ語を同時に形成する日独国際児の事例に基づいて、言語に媒介された社会文化的活動への共同参加の過程を質的に解明することを目的としている。

[調査1] 日誌法による日常活動の記録  
 [調査2] 対象児の通学校 (現地校と日本語補習授業校) でのフィールド調査  
 [調査3] 日本語とドイツ語における会話力と読み書き能力の測定

平成22年度は、研究計画に基づき、3種類の調査を以下のように実施した。いずれの調査においても、貴重なデータを収集することができた。

[調査1] 前年度の準備を踏まえて、2010年4月~2011年3月まで、二言語発達上重要な年齢の子どもがいる独日国際家族の母親に依頼して、日誌法による観察データを収集した。研究代表者が日誌内容を暫定的に分析してフィードバックを行うことで、良質の記録を得ることができた。

[調査2] 2010年9月23日~同10月1日まで、ドイツ・バイエルン州でフィールド調査を行った。対象児が通う現地校と日本語補習授業校で、授業参観・教師との面談・資料収集を行った。

[調査3] 日本語検査 (ATLA、読み課題、読解課題、お話作り課題) とドイツ語検査 (CITO/ELFE、お話作り課題) を行い、対象児の二言語の発達状態を測定した。

いずれの調査データについても、年度末に中間分析を行い、研究討議を行った。

10. キーワード

- |            |              |                |
|------------|--------------|----------------|
| (1) 独日国際家族 | (2) 二言語習得    | (3) 継承語としての日本語 |
| (4) 日誌法    | (5) フィールドワーク | (6) 言語検査       |
| (7) _____  | (8) _____    | (裏面に続く)        |